

#### 4. 神宮寺・宝篋印塔（真言宗・醍醐派）

吉部八幡宮の西にあり鈴雲山神宮寺という。寺伝によれば人皇90代龜山天皇弘長元年辛酉年（1261）領主物部武村が建立したといわれるが、吉部八幡宮の社役をつとめ武運長久の祈願を行い、なお、郡中の惣祈願所として五穀成就万民豊穰、牛馬繁昌のため毎年正月、5月、9月の2夜3日間護摩が執行された。

なお、旧藩時代には藩主のお国巡りの節などには度々お立ち寄られ、古来よりもっとも由緒ある寺院の一つであったが、明治の初め廃寺になり整理された。

境内には、近世紀造立の宝篋印塔がある。施主は不明であるが聞くと ころによると、東吉部村最後の庄屋・藤本某氏と聞いている。もともと鎌倉時代に宝篋印蛇羅尼を納める塔であったが、後には經典供養塔として建立された。

#### 5. 槍立森古墳（発掘調査資料あり）

平成7年度県営圃場整備事業により発掘された。

命名は吉部八幡宮大祭の時、この森に槍持ちの警固番人が立ったことから。

当古墳は、直径約6mの大きさで、古墳時代（6世紀後半）の石室埋葬跡で、各地に多数構築された小円墳の一つと思われる。石室の内部は、南に開口する横穴式石室で、地山を掘り込んだ墓壇内に築かれた玄室（室内）・羨道（入口～室までの通路）より成っている。

周辺から弥生前期末、弥生中期前半、弥生終末期から古墳時代初期にかけての各時期の土器片が出土したが、これらは古墳構築の際に混入したものと推定され、この時代に弥生時代の集落が存在していたと思われる、又、同じ層から祭祀用具とみられる石製模造品も出土した。

※その他の遺跡（◎は発掘調査資料あり）

◎上原田遺跡	西吉部黒川	（現在は農地）
○下市遺跡	東吉部下市	（現在は農地）
◎巨ヶ原遺跡	東吉部田ノ小野	（現在は農地）
○今小野遺跡	東吉部今小野	（現在は農地）
○市の森（竹の森）遺跡	東吉部大榎	（現在は農地）

#### 6. 吉部市地区街なみ

吉部市街なみ環境整備事業は、過疎化が進行している吉部地区において、楠町（現宇部市）北部振興策の一環として取り組み、実現した事業であり、平成6年度から平成15年度にかけて整備された。

目 標 語り継ぐまち 継続し、蓄積するまち

基本テーマ ○歴史が活きる まちづくり

○水と緑を活かした 潤いのある まちづくり

○人の定住化で賑わう まちづくり

街づくり協定 ①集落における景観形成を図る。

②住宅は2階建てまでとし、軒桁高さをそろえる。

③屋根は瓦屋根とし、色彩は黒又は茶系統で意匠統一を図る。

④外壁は漆喰の白と杉板色を採用する。

⑤新築、増築、改修あるいは色彩の変更は景観との調和を図る。

⑥その他

見どころは、吉部八幡宮参道沿いに流れる水路を、「ほたる」の舞う水路に改修したことや、吉部八幡宮楼門を再活用したこと、また、市街地の5ヶ所に小公園と親水公園を整備した。

総事業費 5億3508万5千円